

埼玉県農林水産業の情勢



関東農政局 埼玉県拠点
令和7年8月



目次

埼玉県概要	3
埼玉県の農林水産業概要	4
埼玉県内の各地域における農林水産物	5
埼玉県の農林水産業データ（農業）	6
埼玉県の農林水産業データ（林業）	8
埼玉県の農林水産業データ（水産業）	9
農業経営体数及び基幹的農業従事者数の推移	10
主要農産物の生産状況	11
みどりの食料システム戦略 県内の取組事例	15
県内の就農事例の紹介	18
埼玉県拠点地方参事官室のご案内	20

埼玉県の概要

- 全域が都心から 100km 圏内
- 海のない内陸県
- 県土面積は国土面積の約 100 分の 1
- 県土面積に占める河川の割合は 3.9% で全国第 2 位
- 人口は全国の 5.9% を占め全国第 5 位、平均年齢は全国で 7 番目に若い
- 内陸性の太平洋側気候、温暖で比較的に自然災害が少ない
- 関東地方の主要な社会・経済拠点として将来の更なる発展が期待

主要指標

県 域	東西 108km 南北 70km
県 土 面 積 (令和 6. 1. 1)	3,798km ² (全国の 1.0%)
総 人 口 (令和 6. 4. 1)	7,326,804 人 (全国の 5.9%)
総 世 帯 数 (令和 6. 4. 1)	3,297,455 世帯
平 均 年 齢 (令和 2. 10. 1)	46.8 歳 (全国で 7 番目に若い)
名目県内総生産 (令和 3 年度)	23 兆 7,336 億円
1 人当たり県民所得 (令和 3 年度)	305 万円
気 象 (熊谷気象台平年値)	平均気温 15.4℃ 年降水量 1,305.8mm

(総務省「国勢調査」、「人口推計」
県土地水政策課「埼玉の土地」)

国土交通省「全国都道府県市区町村別面積調べ」
県統計課「県民経済計算」、「埼玉県推計人口」)



(県土地水政策課「埼玉の土地」)



(「埼玉県の地形区分と名称図」1975 村本達郎氏による)

埼玉県の農林水産業の概要

特徴・取組

埼玉県は、周囲を1都6県に囲まれた海のない内陸県で全域が都心から100km圏内、県土面積に占める河川の割合は3.9%で全国第2位。人口は、約733万人で全国の5.9%を占め第5位、平均年齢は46.8歳で全国で7番目に若い。

内陸性の太平洋側気候に属し温暖である。関東地方の主要な社会・経済拠点として将来の更なる発展が期待される。

埼玉県内の事業所数は約23万事業所、東京、大阪、愛知、神奈川に次ぎ全国第5位。産業大分類別事業者数では、製造業が第4位、卸売業・小売業が第6位となっている。食品製造業の製造品出荷額は全国2位。

農林水産物については、恵まれた自然条件と、大消費地である首都圏の中央にある産地という「地の利」を生かし、野菜、米、麦、花き、果樹、畜産など多彩な農業生産が行われている。特に、産出額（令和5年）は、花きが全国第7位、麦類が第7位、野菜が第8位と全国有数の産地となっている。

埼玉県では、人口減少の始まり、燃料・資材の価格高騰、気候変動による農作物への影響や災害の深刻化など様々な課題が生起する一方、デジタル技術の発展など活かすべきチャンスも生まれている。このような環境変化に的確に対応し、農林水産業の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和3年3月に、「埼玉県農林水産業振興条例」に基づき「埼玉県農林水産業振興基本計画」を策定した。この計画に基づき、農林漁業者の経営力向上や、農林水産業の競争力・持続力の強化を図り、農林水産物の安定供給や農山村の魅力の発揮を通じて、広く県民に喜ばれる農林水産業・農山村の実現を目指している。

具体的には、農林水産業への新規就業を促進し、地域の農林水産業を支える担い手を育成・確保するとともに、経営の法人化を推進し経営改善を図っている。

また、農業生産基盤の整備により営農条件の改善を図り、高収益を目指す農業経営体を育成するとともに、アグリテック等の先端技術を活用した農林水産業の活性化、有機農業の普及や県産農産物の需要拡大などのほか、気候変動や家畜伝染病など様々なリスクへの対応に取り組んでいる。

さらに、農山村が魅力あるものとなるよう、農業用水周辺の水辺空間などの環境整備を行うとともに、適正な森林整備を通じて、洪水や土砂流出の防止、良好な景観の形成など多面的機能の発揮を促進している。

主な農林水産物

米

東部地域を中心とする早期栽培から、北部地域の二毛作など、地域の条件を生かした米作りが展開されている。



小麦

麦の主要な生産県であり、中でも小麦は、安定した品質に加えて、製粉工場が近いことなどにより高い評価を受けている。



さといも

西部地域を中心に生産され、特に落ち葉堆肥を活用して栽培されたものは独特のぬめりやねばりがある。（収穫量全国1位）



ねぎ

県内で生産される野菜の中で最も作付面積が大きく、県を代表する野菜である。

（収穫量全国2位）



日本なし

東部・北部地域が主産地である本県の梨は、県オリジナル品種「彩玉」ほか全国梨選手権で最高金賞等を受賞するなど評価が高まっている。



いちご

近年誕生した県オリジナル品種「あまりん・かおりん・べにたま」が全国いちご選手権で最高金賞等を受賞するなど評価が高まっている。



パンジー

中央・東部地域を中心に栽培。露地やハウスにおいて周年栽培されている。（出荷量全国1位）



ゆり

北部地域を中心に切り花の生産が盛んで、特にゆりの出荷量は全国の約2割を占めている。（出荷量全国1位）



狭山茶

西部地域の狭山丘陵地域を中心に生産され、「狭山火入」という独特の仕上げ技術により、甘く濃厚な味に仕上がっている。



ホンモロコ

全国に先駆け水田を利用した養殖技術を確認。東部地域を中心に養殖が行われている。



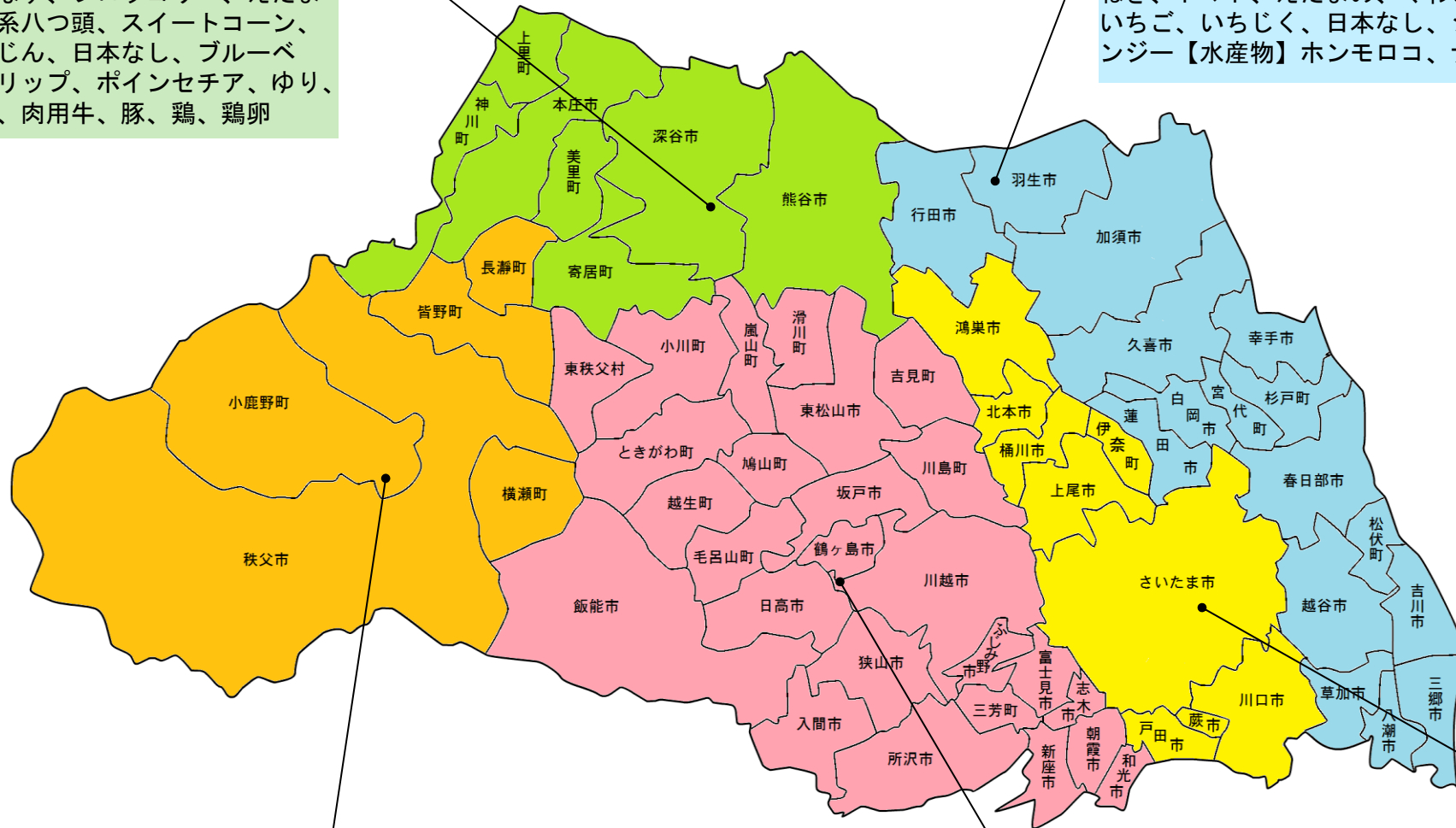
埼玉県内の各地域における農林水産物

北部地域

【農畜産物】水稲、小麦、ねぎ、きゅうり、やまといも、なす、ブロッコリー、えだまめ、かぶ、丸系八つ頭、スイートコーン、トマト、にんじん、日本なし、ブルーベリー、チューリップ、ポインセチア、ゆり、洋ラン、植木、肉用牛、豚、鶏、鶏卵

東部地域

【農産物】水稲、小麦、こまつな、きゅうり、ねぎ、トマト、えだまめ、くわい、丸系八つ頭、いちご、いちじく、日本なし、シクラメン、パンジー【水産物】ホンモロコ、ナマズ



秩父地域

【農産物】きゅうり、いちご、しゃくし菜、かぼす、ぶどう、かき、こんにゃく、繭、切り枝
【林産物】しいたけ

西部地域

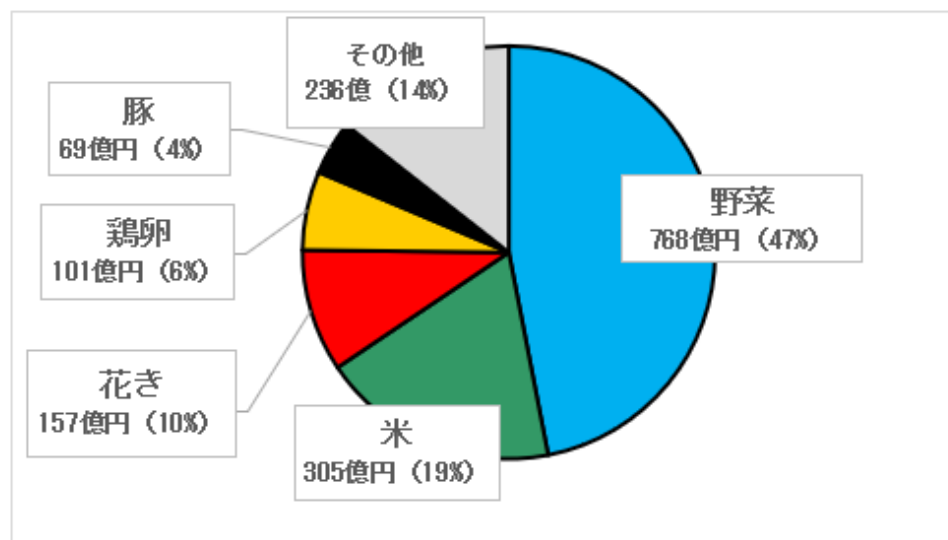
【農畜産物】さつまいも、こまつな、かぶ、ほうれんそう、さといも、えだまめ、くり、ぶどう、いちご、うど、にんじん、のらぼう菜、茶、いちじく、うめ、かき、ゆず、キンギョソウ、洋ラン、切り枝、鶏、肉用牛

中央地域

【農産物】くわい、こまつな、木の芽、ヨーロッパ野菜（スイスチャード、ビーツ等）、日本なし、ぶどう、洋ラン、植木、カーネーション、パンジー、プリムラ、シクラメン、切り枝

埼玉県の農林水産業データ（農業1）

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区 分	年次	埼 玉 県	全 国	全国順位
水稲	収穫量 R6	140,900 t	7,345,000 t	19
小麦	収穫量 R6	21,900 t	1,023,000 t	6
さといも	収穫量 R5	16,600 t	126,700 t	1
ねぎ	収穫量 R5	48,500 t	416,300 t	2
ブロッコリー	収穫量 R5	15,200 t	171,400 t	2
かぶ	収穫量 R5	14,600 t	98,600 t	2
いちご	収穫量 R5	2,940 t	161,800 t	13
日本なし	収穫量 R6	5,670 t	172,700 t	9
ゆり	出荷量 R5	22,400 千本	101,800 千本	1
パンジー	出荷量 R5	7,640 千本	98,600 千本	1

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」

農業産出額のデータ

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
農業産出額	1,636 億円 (100.0)	94,991 億円 (100.0)	22
米	305 億円 (18.6)	15,193 億円 (16.0)	19
麦類	17 億円	678 億円	7 *
雑穀	1 億円	77 億円	18
豆類	1 億円	572 億円	33
いも類	29 億円	2,301 億円	10
野菜	768 億円 (46.9)	23,243 億円 (24.5)	8
果実	49 億円 (3.0)	9,593 億円 (10.1)	37
花き	157 億円	3,522 億円	7
工芸農作物	13 億円	1,467 億円	16
その他作物	16 億円	585 億円	11 *
畜産	280 億円 (17.1)	37,248 億円 (39.2)	33
肉用牛	49 億円	7,696 億円	34
乳用牛	59 億円	9,249 億円	25
生乳	54 億円	8,310 億円	25
豚	69 億円	7,194 億円	25
鶏	101 億円	12,069 億円	32
鶏卵	101 億円	7,448 億円	24
ブロイラー	x 億円	4,471 億円	- *
その他畜産物	2 億円	1,041 億円	22
加工農産物	1 億円	513 億円	34

出典：「令和5年生産農業所得統計」

注：() は農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「0」：単位に満たないもの(例：0.4t→0t)

「-」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

埼玉県の農林水産業データ（農業2）

耕地面積

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
耕地面積	72,700 ha	4,272,000 ha	16
田	40,600 ha	2,319,000 ha	23
畑	32,100 ha	1,952,000 ha	13
普通畑	29,800 ha	1,118,000 ha	8
樹園地	2,250 ha	248,600 ha	32
牧草地	62 ha	585,900 ha	38
参考) 総土地面積	379,775 ha	37,797,568 ha	39

出典:「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和6年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	3,772 ha	256,676 ha	25

出典:「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
農業経営体数	28,376 経営体	1,075,705 経営体	16
法人経営体	538 経営体	30,707 経営体	26
総農家数	46,463 戸	1,747,079 戸	14
販売農家	27,588 戸	1,027,892 戸	16
参考) 世帯総数	3,162,743 世帯	55,830,154 世帯	5
集落営農数	76 集落営農	13,998 集落営農	38

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落営農実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	24,681 ha	2,593,345 ha	27
集積率	33.8 %	60.4 %	32

出典:「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	37,683 人	1,363,038 人	15
男	23,072 人	822,144 人	13
女	14,611 人	540,894 人	14
65歳以上	27,354 人	948,621 人	12
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	72.6 %	69.6 %	-
認定農業者数	4,931 経営体	216,227 経営体	18
法人数	502 法人	28,810 法人	26
参考) 総人口数	7,344,765 人	126,146,099 人	5

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売(売上)金額及び事業体数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
農産加工	総額 7,066 百万円 事業体数 630 事業体	999,786 百万円 27,760 事業体	36 20
農産物直売所	総額 50,998 百万円 事業体数 770 事業体	1,126,420 百万円 21,240 事業体	3 6
観光農園	総額 1,763 百万円 経営体数 220 経営体	37,281 百万円 5,050 経営体	6 6
農家民宿	総額 15 百万円 経営体数 0 経営体	5,352 百万円 1,140 経営体	37 * 42 *
農家レストラン	総額 704 百万円 事業体数 30 事業体	39,434 百万円 1,360 事業体	24 * 15 *

出典:「令和5年度6次産業化総合調査結果」

埼玉県農林水産業データ（林業）

林業産出額

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
林業産出額	17.2 億円	4,751.0 億円	42
木材生産	7.2 億円	2,481.0 億円	41 *
栽培きのこ類生産	9.9 億円	2,199.2 億円	32

出典：「令和5年林業産出額」

林野面積

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
林野面積	119,466 ha	24,770,201 ha	41
国有林	11,884 ha	7,153,338 ha	38
民有林	107,582 ha	17,616,863 ha	41
人工林面積	59,114 ha	10,133,111 ha	41

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
林業経営体数	129 経営体	34,001 経営体	44
法人経営体	16 経営体	4,093 経営体	44

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
素材生産量	65 千m³	20,643 千m³	42
針葉樹	42 千m³	18,922 千m³	40
すぎ	31 千m³	11,917 千m³	41
ひのき	10 千m³	3,176 千m³	29
広葉樹	23 千m³	1,721 千m³	18
なめこ	生産量 296 t	23,752 t	11
まいたけ	生産量 89 t	55,290 t	12
ひらたけ	生産量 4 t	4,630 t	22
乾しいたけ	生産量 7 t	1,816 t	25

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
工場数	43 工場	3,749 工場	39
製材用製材の入荷があった工場数	43 工場	3,729 工場	39
国産材のみ	38 工場	3,156 工場	35
国産材と輸入材	5 工場	457 工場	30

出典：「令和5年木材統計」

埼玉県の農林水産業データ（水産業）

漁業産出額

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	- 億円	15,241 億円	-
漁業	- 億円	9,510 億円	-
養殖	- 億円	5,731 億円	-

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	0 経営体	65,662 経営体	-
内水面漁業経営体数	93 経営体	4,076 経営体	13

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	0 人	121,389 人	-
男	0 人	109,757 人	-
女	0 人	11,632 人	-

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
漁船隻数	0 隻	109,283 隻	-
動力漁船	0 隻	58,906 隻	-

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	- t	3,777,920 t	- *
海面漁業漁獲量	0 t	2,926,411 t	-
海面養殖業収穫量	0 t	851,509 t	- *
内水面漁業・養殖業生産量	7 t	51,908 t	41 *
内水面漁業漁獲量	1 t	21,567 t	37
内水面養殖業収穫量	6 t	30,341 t	43 *
その他のます類	1 t	2,067 t	28

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	埼 玉 県	全 国	全国順位
水産加工	- 百万円	179,159 百万円	- *
事業体数	- 事業体	1,220 事業体	- *
水産物直売所	- 百万円	34,988 百万円	- *
事業体数	- 事業体	810 事業体	- *
漁家民宿	- 百万円	5,389 百万円	- *
経営体数	- 経営体	540 経営体	- *
漁家レストラン	- 百万円	13,249 百万円	- *
事業体数	- 事業体	380 事業体	- *

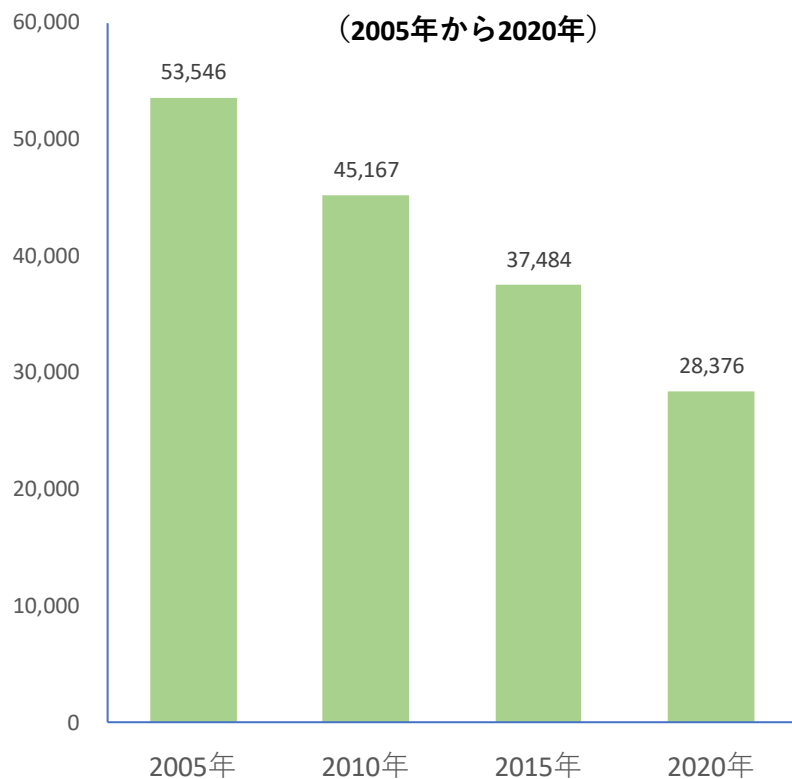
出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

農業経営体数及び基幹的農業従事者数の推移

(経営体)

農業経営体数の推移

(2005年から2020年)

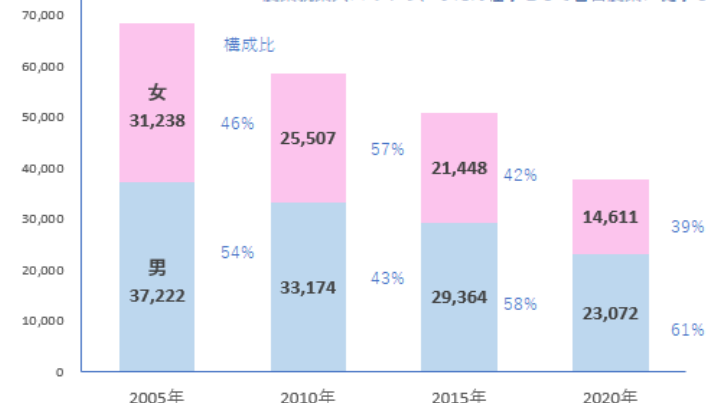


センサス	2005年	2010年	2015年	2020年	15年差	増減率
経営体数	53,546	45,167	37,484	28,376	-25,170	-47%
増減率	-	-16%	-17%	-24%	-	-

(経営体)

基幹的農業従事者数の推移 (2005年から2020年)

農業就業人口のうち、ふだん仕事として自営農業に従事した人

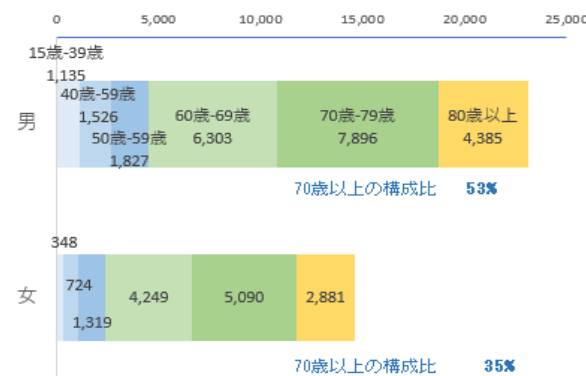


(経営体)

センサス	2005年	2010年	2015年	2020年	15年差	増減率
男	37,222	33,174	29,364	23,072	-14,150	-38%
女	31,238	25,507	21,448	14,611	-16,627	-53%
構成比 (男)	54%	57%	58%	61%		
構成比 (女)	46%	43%	42%	39%		

基幹的農業従事者の年齢階層別 (2020年)

(人)



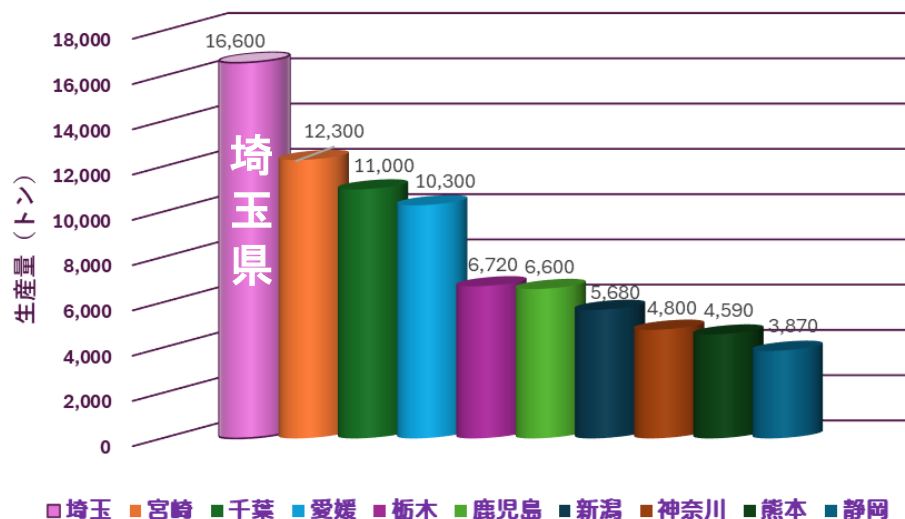
基幹的農業従事者数年齢階層別

センサス	15歳-39歳	40歳-59歳	50歳-59歳	60歳-69歳	70歳-79歳	80歳以上
男	1,135	1,526	1,827	6,303	7,896	4,385
女	348	724	1,319	4,249	5,090	2,881
構成比 (男)	5%	7%	8%	27%	34%	19%
構成比 (女)	2%	3%	6%	18%	22%	12%

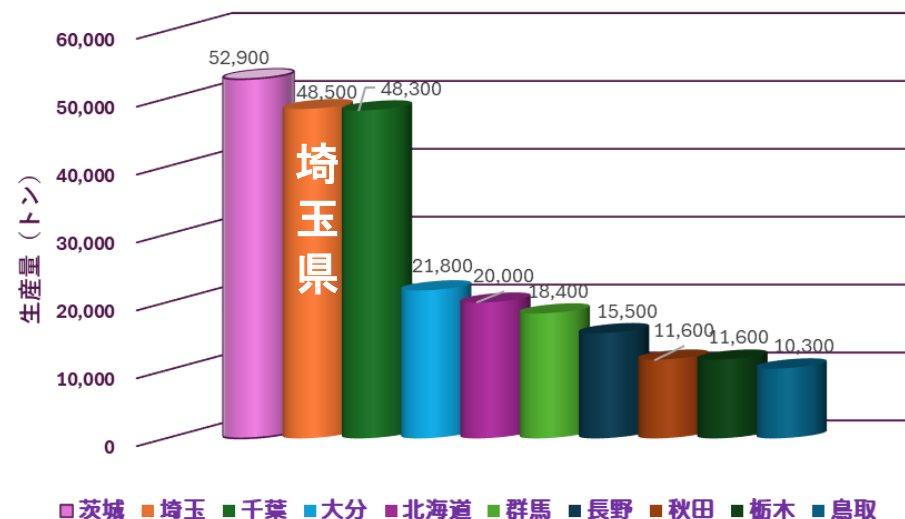
出典：農林業センサス

主要農産物の生産状況（さといも・ねぎ）

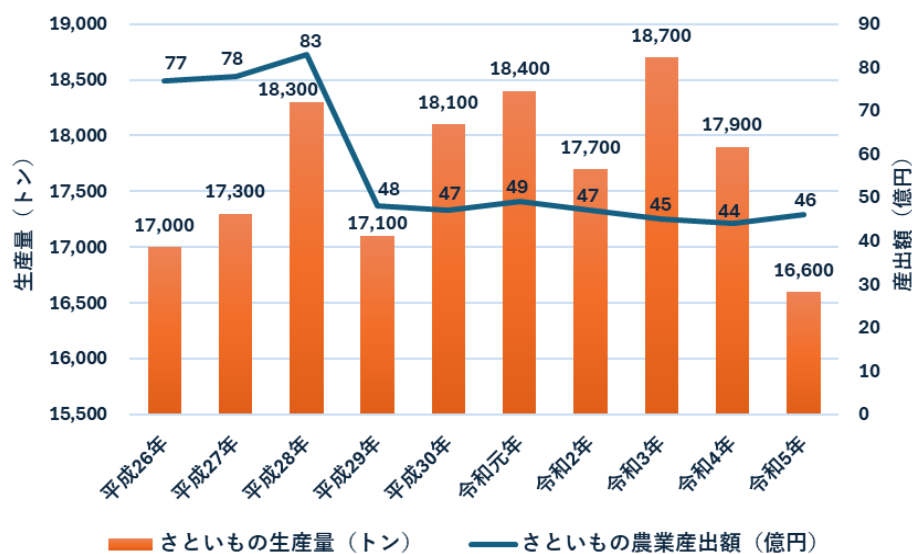
さといも主産県（令和5年上位10位）



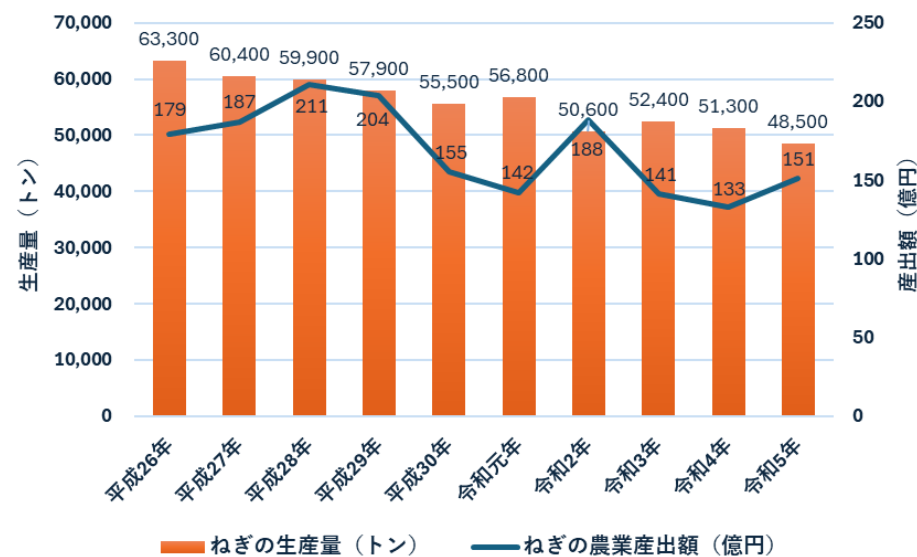
ねぎ主産県（令和5年上位10位）



埼玉県のさといもの生産動向

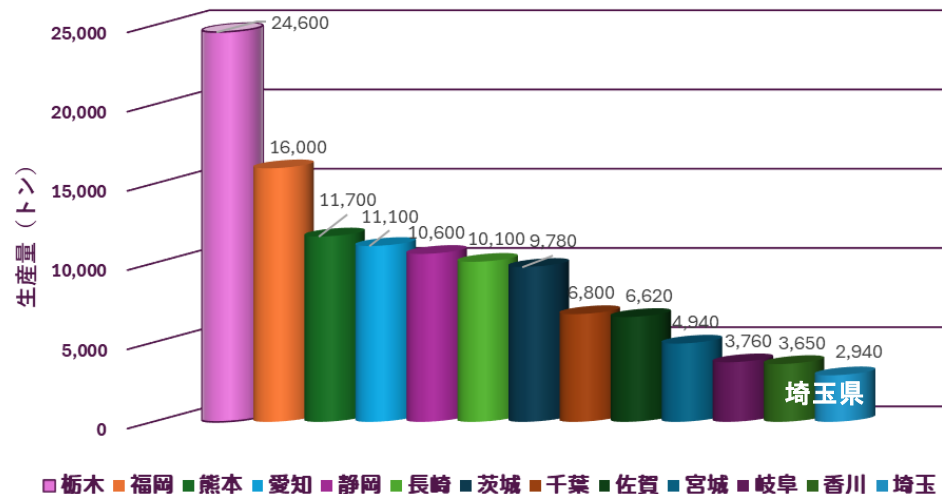


埼玉県のねぎの生産動向

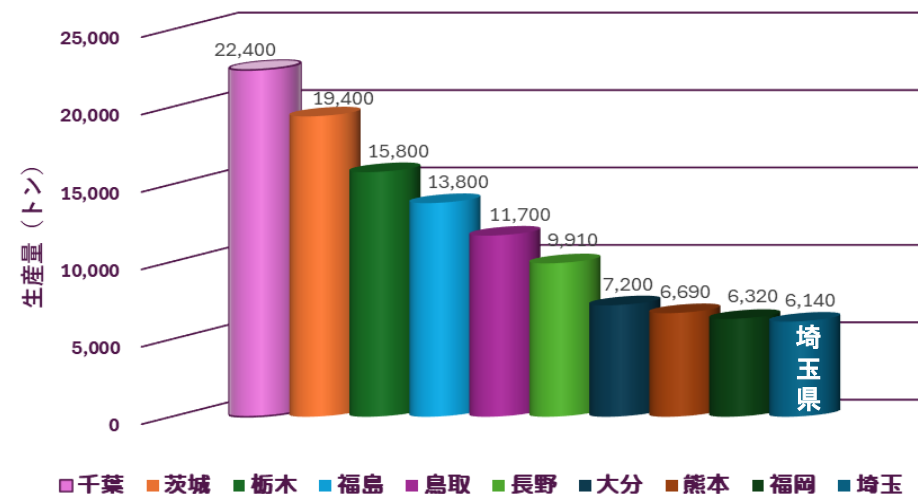


主要農産物の生産状況（いちご・なし）

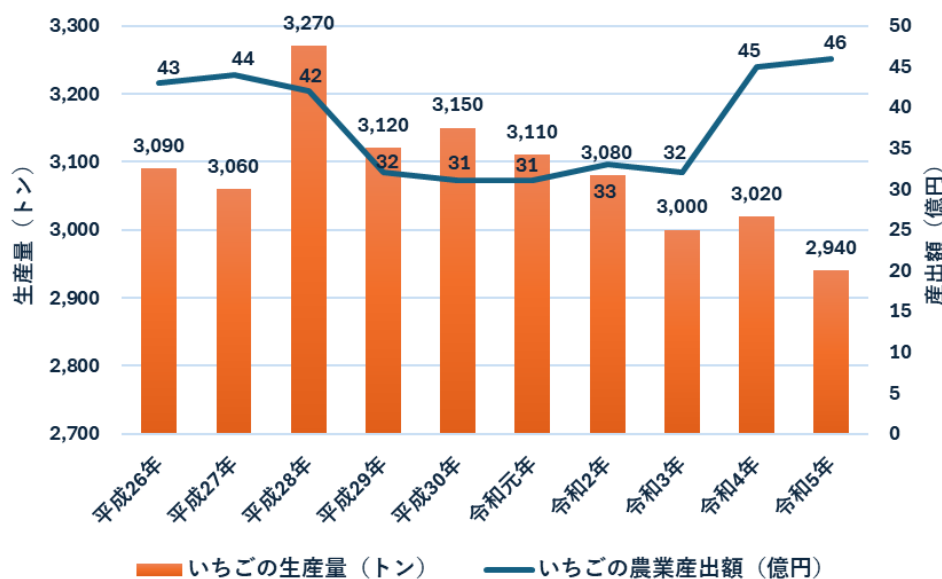
いちご主産県（令和5年上位13位）



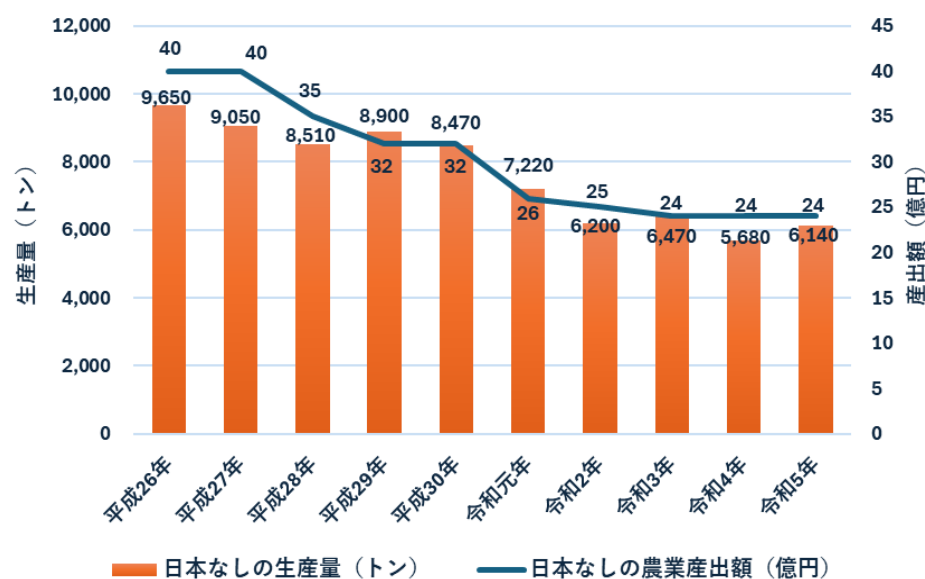
日本なし主産県（令和5年上位10位）



埼玉県のいちごの生産動向



埼玉県の日本なしの生産動向



県産いちご・なしの話題

「いちご選手権」及び「梨選手権」での県産品の快挙続く！

一般社団法人日本野菜ソムリエ協会主催の「全国いちご選手権」においては過去3回、「クリスマスいちご選手権」においては過去2回、合計5回の大会全てで県内生産者のいちごが最高金賞に選ばれている。

また、「全国梨選手権」においては、第2回に続き第3回でも県内生産者の梨が最高金賞に選ばれた。

全国各地の産地から多数出品されるこれら大会で、野菜ソムリエ有資格者による食味評価であるこの受賞結果は快挙といえる。

「第3回全国いちご選手権」久米原農園 八代目 久米原 美幸の『あまりん ～極～』が最高金賞受賞

令和7年2月5日、一般社団法人日本野菜ソムリエ協会主催の「第3回全国いちご選手権」が開催され、「久米原農園 八代目 久米原 美幸」（本庄市）の「あまりん ～極～」が最高金賞に選ばれた。

なお、本選手権での県内生産者の最高金賞受賞は、3回連続である。

選手権は、全国各地の産地より計375品のいちごが集結し、野菜ソムリエが食味審査を行った。銅賞以上では16品のうち8品が、入賞以上では44品のうち26品が県内生産者の受賞となった。



最高金賞「あまりん ～極～」

「第2回クリスマスいちご選手権」久米原農園 8代目 美幸の『べにたま -X-』が最高金賞を受賞

令和6年12月10日、日本野菜ソムリエ協会主催の「第2回クリスマスいちご選手権」が開催され、久米原農園 8代目 美幸の（本庄市）「べにたま -X-」が最高金賞に選ばれた。

また、金賞2品・銀賞2品・銅賞4品・入賞2品を県内生産者が受賞し、銅賞以上の上位14品中9品、入賞以上の23品中11品を県内の生産者が占めた。

「第2回クリスマスいちご選手権」は、いちごに最も注目が集まるイベント「クリスマス」の時期に、おいしいいちごを決定する品評会である。

全国各地の産地より計63品のいちごが集結し、野菜ソムリエが食味審査を行った。



最高金賞「べにたま -X-」

「第3回全国梨選手権」梨の大澤農園の『彩玉梨 糖度保証付』が最高金賞を受賞

令和6年9月11日、日本野菜ソムリエ協会主催の「第3回全国梨選手権」が開催され、梨の大澤農園（久喜市）の『彩玉梨 糖度保証付』が最高金賞に選ばれた。

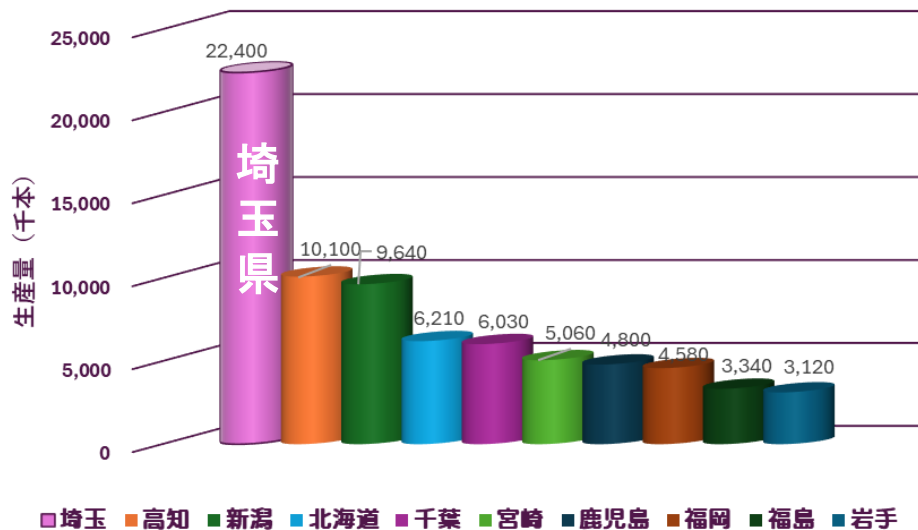
全国各地の産地より計26品の梨が集結し、野菜ソムリエが食味審査を行った結果、入賞以上の16品中最多の7品を、さらに銅賞以上の7品中5品を県内の生産者が占め、埼玉県産の梨が2年連続で最高金賞を受賞した。



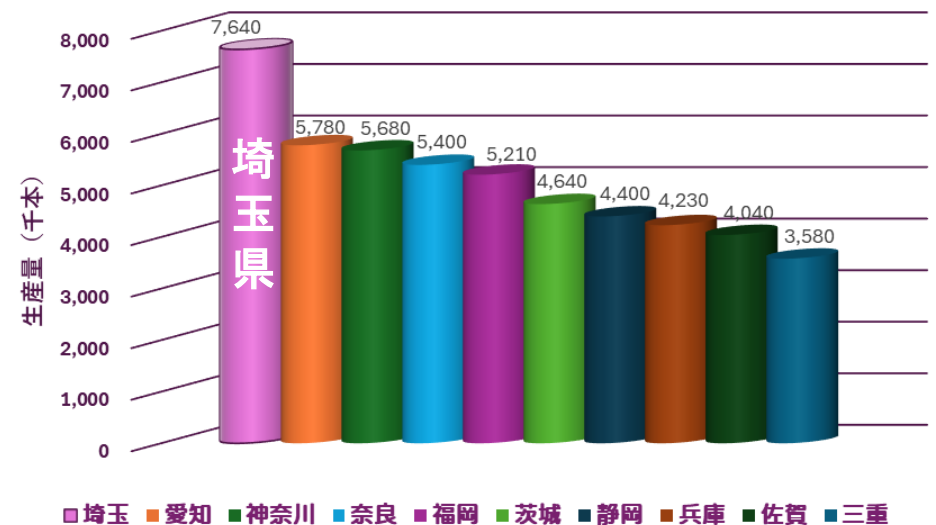
最高金賞「彩玉梨 糖度保証付」

主要農産物の生産状況（ゆり・パンジー）

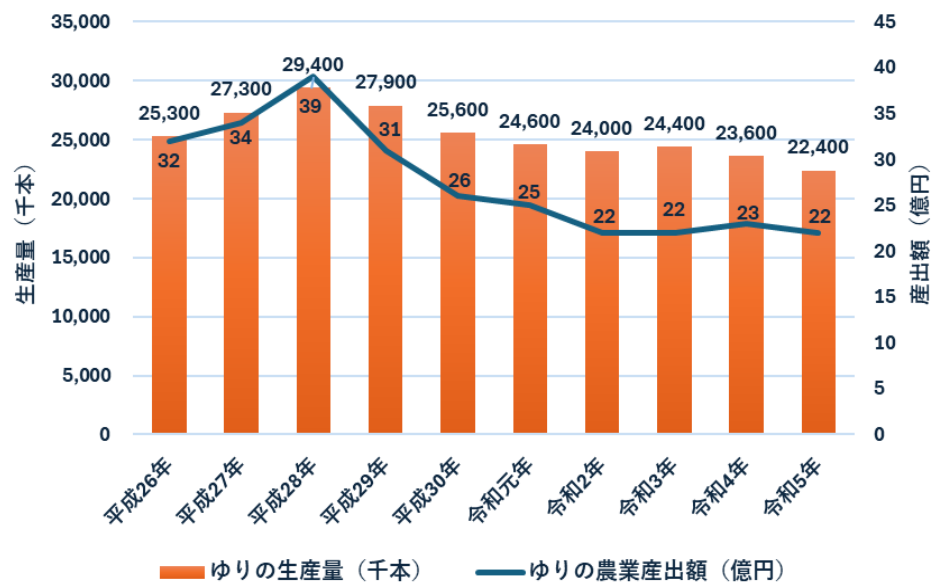
ゆり主産県（令和5年上位10位）



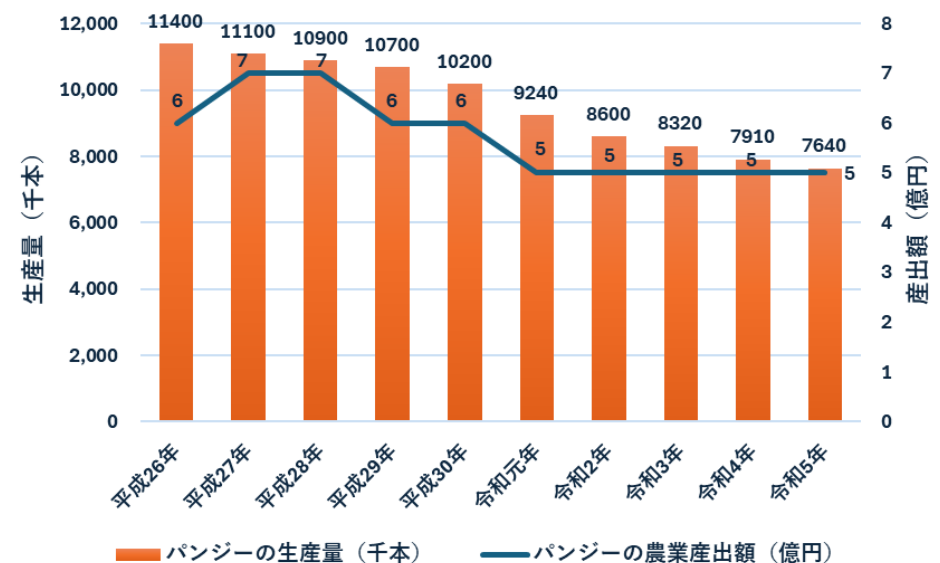
パンジー主産県（令和5年上位10位）



埼玉県のゆりの生産動向



埼玉県のパンジーの生産動向



みどりの食料システム戦略 県内の取組事例（１）

農林水産省は令和３年５月、調達から生産、加工、流通、消費に至るまでの食料システムを持続可能なものとするため、2050年までの中長期的な観点で、環境負荷低減を図りながら、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を目指す「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

また、令和４年４月22日に「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が成立し、７月１日に施行、今後は本法に基づき、環境と調和のとれた食料システムの確立に向けた取組を進めることとなっています。

当拠点では、みどりの食料システム戦略やみどりの食料システム法の趣旨、政策等の情報を現場へ提供するとともに、現場のご意見・ご要望等を把握し、政策の推進や改善につなげていきます。

関東農政局HPには、県内の生産現場における取組事例を紹介しています。（様式上部のタブが取組カテゴリー）

[埼玉県内における取組事例紹介:関東農政局](#)

みどり認定

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

SOU FARM

(ソウ ファーム)

(埼玉県比企郡小川町)



【生産概要】 (令和7年産)
経営面積：80a
栽培品目：露地野菜（大豆、ナス、トマト、ピーマン、ズッキーニ等、年間約30種）

【経営概要】 2018年 小川町で有機栽培の研修開始（約2年6ヵ月）
2022年4月 小川町で就農
代表者：柳田 大地、労働力は本人と妻

【販売概要】 都内の飲食店に直販、一部個人直販や対面販売あり

■取組の特徴

- ・トラクターを使用せず、野菜種の自家採種、不耕起・無農薬・無肥料で育てるこだわりの野菜。
- ・畑を人間が見て、きれいな状態にすることではなくて、ここにいる野菜にとって快適な状態を作っておけること。

■取組のきっかけ

- ・幼いころの母親の有機野菜など「食」への気遣いが、農家になるきっかけ。
- ・2018年、アパレル勤務を経て農家に転身。

■新規就農者へのアドバイス

- ・目先の成果だけにとらわれず、未来に対しプライドが持てれば、苦労も苦と思わなくなるのではないか。

■今後取り組みたいこと

- ・現在、友人等と農業だけにこだわらず、小川町の将来を話し合う場を設けているところ。あわせて、自分が関わることでこの土地をより豊かにするという目的だけは変わりません。

事務所所在地：埼玉県比企郡小川町

SNS: https://www.instagram.com/sou_farm/

みどり認定

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

小野屋 おおたに農園

(埼玉県比企郡川島町)



【生産概要】 (令和6年産)
経営面積：9アール
栽培品目：施設園芸（トマト、ミニトマト）

【経営概要】 2022年6月 川島町認定新規就農者
12月 トマト栽培開始
2024年4月 S-GAP取得
代表者：大谷 正成、労働力は本人と妻

【販売概要】 伊佐沼農産物直売所、JA埼玉中央 川島農産物直売所、
(株)マルエツ、(株)カスミ、自社ホームページでの直販

■取組の特徴

- ・ココバック栽培（ヤシガラを使った隔離栽培システムで、土壌病害の発生を防ぎ、土壌へ病害虫が入った場合でもすぐに交換ができ、被害の拡大を防ぐことができる栽培技術）によるトマト栽培。
- ・ハウス内の温度や湿度、水分などの環境制御のため、農業関連情報サービスを活用。
- ・自農園のトマトを使ったトマトジュースを委託製造・販売。

■取組のきっかけ

- ・従来の経験に基づいた属人的な生産体制からの脱却を図り、省力化と高品質化を両立させるため、研修先の農家実践していたココバック栽培システムを体験したことが導入のきっかけ。

■取組のメリット

- ・適正な施肥管理により、収量増加が見込める。また、土壌病害回避に加え、定植作業等が大幅に省力化でき生産効率上がる。

■今後取り組みたいこと

- ・今後はAIを活用した画像解析や土壌評価のデータを収集し、更なる生産性の向上を目指したい。

事務所所在地：埼玉県比企郡川島町曲師曲居野235-1

HP: <https://otaniifarm.wixsite.com/my-site>

電話：070-2632-9075

E-mail: otani.farm@gmail.com

みどりの食料システム戦略 県内の取組事例（2）

みどり認定

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業 省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

横田寛明氏（埼玉県小鹿野町）



【生産概要】
経営面積：10a
栽培品目：施設きゅうり

【経営概要】
2022年 新規就農、労働力1名、横田 寛明（写真 左）
2023年 S-GAP実践農場
2024年 みどり認定取得

【販売概要】
埼玉のブランド農産物である「秩父きゅうり」を東京都内の青果市場に出荷・販売している。

■環境負荷低減の取組内容

- ・地元きのご工場の廃菌床を利用した土づくり
- ・天敵農業の利用拡大による化学農薬使用回数の削減
- ・JAちちぶ園芸部会全体で行っている土壌診断に基づく施肥設計や有機質肥料主体の施肥

■みどり認定取得のきっかけ、よかったこと等

- ・JAちちぶ園芸部会の講習会で認定制度を紹介され、興味を持った。すでに天敵農業を活用するなど環境に配慮した農業を実践していたこともあり、取り組みやすい内容であったため、みどり認定の取得に至った。
- ・市場では、環境負荷低減の取組が魅力の1つになると考えている。

事務所所在地 〒368-0201 埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄 1 4 2 4 - 2
電話番号 080-5469-8843

みどり認定

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業 省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

みなみの有機農園（埼玉県鶴ヶ島市）



【生産概要】（令和6年産）
経営面積：45a
栽培品目：農業・化学肥料不使用
施設園芸（トマト、きゅうり、ピーズ）
露地野菜（さといも、にんじん、ハーブ等）

【経営概要】2023年4月就農、労働力は本人のみ
代表者：南埜 弘高

【販売概要】主に株式会社カインズで販売。そのほか学校給食、食べチョク（インターネット販売サイト）、飲食店に販売。

■取組の特徴

- ・すべての作物は、化学農薬・化学肥料不使用で栽培を行っており、ハウス2棟（トマト、キュウリ、ピーズ）、多品目の露地野菜（さといも、にんじん、ハーブ等）を栽培している。

■取組のきっかけ

- ・神主をしていた時に、神に農産物を奉納するのに当たり、自然に栽培した農産物が良いと考え、化学農薬・化学肥料不使用栽培を選択した。

■取組のメリット

- ・インターネット販売では、健康志向の購入者への販売が好調であり、価格も2割程度高く販売できており、慣行栽培とは差別化が図られている。

■工夫している点

- ・化学農薬や化学肥料を使わないため、緑肥及び鶏糞を土にすき込み、納豆菌水溶液を散布しています。また、土壌消毒とともに除草作業等を減らすため、地表を透明フィルムで被覆して約1か月程度の太陽熱消毒を行っている。

■今後取り組みたいこと

- ・近隣の新規就農者と共同で6次産業化を検討しており、生産したさつま芋を焼き芋に加工し、販売していきたい。

事務所所在地：埼玉県鶴ヶ島市
mail : hirotaka3730@gmail.com

みどり認定

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業 省力化技術

食品ロス削減

国産・地場産の供給拡大

その他

JAさいたま彩玉（黄金の雫）生産部会（埼玉県上尾市、伊奈町）



【生産概要】
梨3.9ha

【経営概要】
構成員数12名

【販売概要】
埼玉県の育成品種である梨「彩玉」を一定の基準で栽培したものを「黄金の雫」と名付け、生産・販売している。

■環境負荷低減の取組内容

- ・ナギナタガヤによる草生栽培
- ・堆肥散布の実施
- ・有機質成分中心の肥料を使用
- ・天敵資材（バンカーシート）の使用奨励

■みどり認定取得のきっかけ、よかったこと等

- ・「黄金の雫」の栽培基準として、エコファーマー認定を受けることを要件としていたが、後継制度にあたるみどり認定を受けることを新たな栽培基準としたため。
- ・認定を受けることで、「黄金の雫」ブランド価値の維持につながっています。

事務所所在地 〒364-0033 埼玉県北本市本町7-66 さいたま農業協同組合 北部営農経済課
電話番号048-593-7811 HPアドレス <https://www.ja-saitama.or.jp/>

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業 省力化技術

食品ロス削減

国産原料の利用

その他

ますだのやさい（埼玉県北葛飾郡松伏町）



【生産概要】（令和6年産）
水稲：14ha（コシヒカリ、彩のきずな、ほしじろし、ササニシキ等）
* 水稲は一部無農薬及び減農薬
露地野菜：1.5ha（かんしょ、たまねぎ、にんじん、レタス等）
* 野菜は全て農業・肥料不使用

【経営概要】2015年に就農
主食用米を始め米粉用米、飼料用米を生産（米粉用米は、外部委託により製粉し「米粉」で販売）
【スマート農業技術】自動運転田植機（直進キープ）、自動運転（有人）トラクター、食味・収量センサー付きコンバイン（経営・生産管理システム連携）
【米販売概要】JA、スーパー、農産物直売所等の他、米粉はネット販売

■取組の特徴

- ・食味・収量センサー付きコンバインからの「収穫した米穀のタンパク値や水分、収量などの情報」、また、穀物乾燥機に取り付けたセンサーからの「張り込み量や乾燥状況などの情報」が、経営・生産管理システムに送信・蓄積され、それらの情報をパソコンやスマートフォンで確認できる。
- ・収穫時のタンパク値や収量はほ場ごとに確認でき、ほ場内のバラツキがメッシュマップ化され、翌年の栽培管理に活用できる。
- ・刈り取り時に測定したタンパク値や水分に応じて、2台ある乾燥機への搬入を仕分けすることができる。
- ・自動運転（有人）トラクターは、ほ場の緯度や経度を一度設定すれば翌年以降の設定は不要。

■取組のメリット

- ・翌年の施肥設計に役立ち、品質の向上と効率的な生産に取り組むことができる。
- ・籾の水分含量ごとに仕分けして効率的な乾燥を行うことにより、燃料の節約にもなる。

■今後取り組みたいこと

- ・可変施肥田植機や水田の自動除草機械などを導入していきたい。

事務所所在地：埼玉県北葛飾郡松伏町大川戸1725
HPアドレス : <https://masudanoyasai.net>

みどりの食料システム戦略 県内の取組事例（3）

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地産物の供給拡大

その他

きょうあさ農園（埼玉県所沢市）



【生産概要】（令和6年産）
経営面積：1.7ha
栽培品目：ブロッコリー、ほうれんそう、サニーレタス、なす、きゅうり、さつまいも、長ねぎ

【経営概要】 2022年4月就農、労働力は本人と妻
2022年3月 家族経営協定締結
代表者：西小野 恭平

【販売概要】 ファームドゥ株式会社（食の駅）、学校給食、農家仲間が立ち上げた卸

■取組の特徴

- 農業・化学肥料の不使用又は農業使用5割減で栽培。

■取組のきっかけ

- 前職の管理栄養士、調理師の経験から、料理の味は素材の質で大部分が決まることを実感し、自ら生産することを決意した。また、栄養士の資格を持つ妻も食物への思いが同じで、夫婦で認定新規就農者になった。

■取組のメリット

- 農業・化学肥料の不使用の場合は、2割程度高く販売できる上、販売も好調である。

■工夫している点

- 土づくりとして、全農地で年1回緑肥を栽培してすき込んだ上で、市販の牛糞や鶏糞の堆肥を投入している。また、一作ごとの始めと終わりに環境浄化微生物の「えひめAI-2」を撒いている。

■今後取り組みたいこと

- 将来的には、学校給食をメインの販売先としていきたい。また、カットブロッコリーなどの野菜の加工や野菜スイーツにも取り組みたい。

事務所所在地：埼玉県所沢市所沢新町

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地産物の供給拡大

その他

うえてい農園（埼玉県鴻巣市）



【生産概要】（令和6年産）
経営面積：畑47a
露地野菜：かぼちゃ、スイスチャード、スナップエンドウ、ブロッコリー、ズッキーニなど40品目以上

【経営概要】 うえてい農園（植出大輝）
従事者：本人1名

【販売概要】 「鴻巣有機農業生産グループ」メンバーとして活動
インターネットによる販売、J A直売所・わくわく広場など店舗での販売、マルシェ・イベントへの出店による対面販売など

■取組のきっかけ、特徴

- 市民農園を借りて野菜作りをする中で、家族との時間を大切にしたい想いと、農業の魅力・可能性に惹かれ就農を決意した。31歳の時に公務員を退職し、埼玉県農業大学校で有機農業を1年間学び、北足立北部明日の農業担い手育成塾で研修を受けながら、年間を通して多品目の有機野菜の生産に取り組む。
- 緑肥や有機質肥料だけで育てた野菜を消費者の皆様へ提供する。

■取組のメリット

- 地球環境にやさしく、環境負荷の低減に少しでも協力できること。
- インスタグラムやマルシェ販売などで、お客様の声が直接聞けること。

■苦労している点

- 自分が育てた野菜の良さを消費者に理解してもらい、販路を拡大すること。

■今後取り組みたいこと

- 作付面積を拡大し、安定した生産・販売ができるようにすること。
- かぼちゃバターやかぼちゃチーズブレッド等、野菜を使った加工品の販売を行うこと。

連絡先：ued32.bl@gmail.com Instagram：https://www.instagram.com/uedfarm/

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地産物の供給拡大

その他

ファームFUMI（埼玉県熊谷市）



【生産概要】 果樹園81a（くり、ブルーベリー、かき、キウイフルーツ）
露地野菜15a（青パパイア、モリンガ、ズッキーニ等）

【経営概要】 代表者：高橋 文子
熊谷市の比企丘陵地域にて、化学農業・化学肥料不使用の観光農園を経営。くり、ブルーベリー、かきは令和2年に埼玉県の特別栽培農産物認証を取得、露地野菜も化学農業・化学肥料不使用。青パパイアのピクルス、キウイフルーツのジャムも販売。

【販売概要】 露地野菜、ピクルス等は、自店舗、百貨店、近隣の飲食店へ販売。

■取組の特徴

- 先代から引き継いだ地力の高い農地を活かし、除草剤を含む化学農業と化学肥料を使用せず、環境負荷低減を念頭においた果樹と野菜の栽培を行っている。果樹園では、家族向けのくり拾いやブルーベリー狩りの機会を提供している。
- 青パパイアはピクルスに、キウイフルーツ及びブルーベリーはジャムにも加工して販売している。
- 環境負荷低減の取組を消費者へPRするため、趣味で磨いた撮影技術を活かし、地元の四季折々の自然風景を織り交ぜながらSNSにて情報発信している。

■取組のメリット

- 環境負荷低減の取組に共感する来園者が多く、自身の取組に賛同してくれる人があることに喜びを感じている。
- 自身が楽しみながら取り組んでいることであっても、地域の環境保全に貢献できているのだという前向きな意識が持てている。

■今後取り組みたいこと

- 当園の環境に優しい取組は、慣行栽培に比べて収穫量が少なくなることから、経営的に厳しいといった課題もあるが、地元の恵まれた環境を次の世代に引き継ぐために、これからも、環境に優しい持続可能な農業を追求していきたい。また、当園の野菜と地元の野菜を熟知したシェフとのコラボによる青空レストランの開催や、自宅を改装した農家レストランなどにも挑戦していきたい。

所在地：埼玉県熊谷市須賀広569
電話番号：090-4629-7989 HPアドレス：https://www.facebook.com/Farm.fumi/

有機農業

農業・化学肥料の不使用・使用低減

温室効果ガスの削減・吸収

スマート農業省力化技術

食品ロス削減

国産・地産物の供給拡大

その他

TSURUOKAファーム（埼玉県三郷市）



【生産概要】（令和5年産）
経営面積：畑50a（有機JAS認証ほ場）
栽培品目：有機農産物（こまつな、ほうれんそう、芽キャベツ、トマト、ハーブ、ブルーベリーなど）

【経営概要】 従事者：鶴岡英俊（代表）、妻、パート5名
有機JAS認証取得（野菜、ブルーベリー）、S-GAP取得

【販売概要】 スーパー3社（京成ストア、コモディイイダ、ココスナカムラ）で販売の他、J Aさいかつを経由してドン・キホーテで販売、市場出荷。ブルーベリーを直売、加工品（有機小松菜パウダー、有機こまつなふりかけ、ブルーベリージャム）をネット販売。

■取組のきっかけ、特徴

- 就農した時は、従来の慣行栽培で生産した農産物を青果市場等に出荷していたが、同種の農産物との競合で販売量が伸び悩んでいた。そこで、他の農産物と差別化でき、消費者に安心して食べてもらえるものを提供したいとの思いから、有機農産物の栽培を開始。
- 水と発酵堆肥（米ぬか、納豆菌及び馬の堆肥を発酵させたもの）を中心とした栽培。
- 鉄骨ハウス内で発酵堆肥を作る際に発生する発酵熱を利用して、土壌消毒を実施。

■取組のメリット

- 消費者からの反応がわかること、美味しいなどの喜びの声が聞けること。

■今後取り組みたいこと

- 将来的には法人化し、輸出も視野に入れた販路拡大と、規模拡大による地域からの雇用の拡大。

■新たに取組を始める人へのアドバイス

- まず、自分でやって、その結果を他者に見てもらい、アドバイスを受けながら何が悪いのかを実感していき、先が見えてくると思う。

所在地：埼玉県三郷市高州2-357
HPアドレス：https://tsuruokafarm.com

県内の就農事例の紹介（１）

埼玉県拠点では、県内における新規就農者を中心に取材し、月に１度発行している広報誌「彩ねっと」で紹介しています。



小川町において、自然環境と共存することで、その土地が豊かになることを願い、不耕起、無農薬、無肥料で野菜を育てるSOU FARMの柳田大地さんを紹介しします。

柳田さんは、母親の「食」への気遣いを通して、「食」が体を作るだけでなく心も育てていることに気付き、10代の頃から、「将来は農家として食べ物を育む人になりたい」との思いがありました。人の暮らしを支える「衣食住」の「衣」がどのように成り立っているのかを学ぶためにアパレル業界で働いたことで、人の暮らしを支える役割・重要性や生活における必要性を感じました。

アパレルで働きながら、若き日の農家になる夢を実現するため、休日を利用して、小川町の農家のもとで有機農業を学び始めました。30歳までには就農したいという思いが強かったこともあり、29歳の時に実家のある川口市から小川町に家族で移住し、就農しました。移住先の自己所有分の30aの畑に、中間管理機構を利用して借りた50aの畑を加えた合計80aの畑で、不耕起、無農薬、無肥料による有機農業を始めました。また、収穫が終わった畑を耕起することなく、自ら野菜の種を採って畑に蒔く農業を行っています。



SOU FARM 柳田 大地さん

当初は、80aの畑に多品種（約100種）の野菜を栽培しましたが、それぞれの野菜との関係性が薄れることから品目を絞り、現在はこの場所に合う約30種（ナス、トマト、ピーマン等）の野菜が安定して収穫できるようになりました。農作業は一人で行っており、繁忙期には妻に手伝ってもらっています。販売先は、都内の飲食店（約20店舗）への直接販売が中心で、店舗やスーパー等には販売していません。飲食店の人には、実際の畑や野菜を直接見てもらい、理解していただいた上で販売しています。

数年前に、四国の友人から譲り受けたさつまいもの種を畑に植えたところ、当初は味もなく失敗かと諦めていましたが、3年目にしてさつまいもの味が出てきました。これは野菜の生命力が土地に適応してきたためだと思えます。野菜そのものの力で土地に順応して成長していくこと、時間はかかるけれど本来の野菜の味がそこにあり、人が手を加えることなく野菜自体が生命力をもってその土地に宿ることが、土地を発展させ環境を良くすることに繋がると考えています。



柳田さんは、野菜で得られる収入は大切なことではあるが、畑の規模を拡大して、収穫量・収入に特化する農業は望んでいません。今の畑の一部を開放して、農に関心がある人が、農業を体験できる場所を作りたいと考えています。農業を通じて、その土地の環境向上、その土地に暮らす人々の生活を少しでも豊かにすることに、皆で協力し合えたらと日々思っているとのこと。

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-5835 <関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>



埼玉県川口市で江戸時代から15代続く農家に親元就農し、伝統をつないでいくため親子三代で奮闘中の農業女子メンバーのISHII FARM 石井美咲さんをご紹介します。

川口市在住の石井さんは、大学を卒業後6年間介護関係の職業に就いていましたが、自身の生き方を改めて見つめ直しながら両親の手伝いを続ける中、地元川口市で江戸時代から15代続いている実家の農業を継ぐことを決意し2022年6月親元就農しました。

栽培品目は、川口市木曾呂地区の特産品のハマボウフウをはじめ、川口市農業ブランド認定の推奨品農産物となる金時生姜やハツ頭、その他サトイモ、サツマイモ、ジャガイモ、葉生姜、ネギ、ケール、クキブロッコリーなど露地を中心に多品目を栽培しています。

父親から日々学んでいる栽培技術と、就農1年後に埼玉県の農業経営塾の講座を月に2回、半年間ほど受講し学んだ経営術を生かしながら、自身の農業の確立を目指している農林水産省の農業女子メンバーです。

販売はこれまでメインとしていた直売所のほか、就農当初はなかなか販売先が拡大できませんでした。直売所等で知り合った方々の協力を得て、新たに駅前のスーパー等の販売先を確保しました。食材の販売先の一つである市内の障害者就労継続支援事業所では、石井さんの生産したケールを使用したオリブオイルの製造を行っています。また、Instagram等のSNSの発信も販売戦略のアイテムとして活用しており、配信を見た方からのメッセージを受け、ネット販売も始めました。

就農フェアでは県外の同業者と知り合いとなり、共同で何か出来ないか模索しています。



石井 美咲さん

最近では、アウトドアグッズを開発・販売している株式会社モンベルが農作業服の開発を行っており、農業女子として意見参加しました。

今後は、「農業を通じたイベントや体験が出来るような農業経営を目指していきたい。特に、子ども達と一緒にできるコミュニティを作っていきたい。さらに、農産物の価値を高め、農業でも一般のサラリーマンと同様の休暇や給料体系となる社会にしたい。」と目を輝かせながら語ってくれました。



ハマボウフウの収穫作業

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-5835
<関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>

県内の就農事例の紹介（2）

彩の国 農業人

～適正な施肥管理と温度管理により
収量増加と作業の効率化を図る～

おおたに まさしげ
大谷 正成さん

川島町において、最先端の隔離栽培技術を活用し、トマトの生産に取り組む新規就農者のおおたに農園代表である大谷正成さんを紹介します。

大谷さんは大阪府出身で大学卒業後、鉄鋼メーカーに勤めていたが、子供が誕生した頃から、「家族との安住の地がほしい」と思うようになり、奥様の実家がある埼玉県に移住しました。移住後、祖父が高齢だったこともあり、田や畑での営農作業がだんだん出来なくなって行く現状を目のあたりにし、先祖から守られて来た農業の重要性や必要性を感じ、今後の農業の可能性や発展性を熟慮し就農することを決意したそうです。

就農するのであれば、しっかりと農業の基礎を学ぶ必要があると考え、2021年に埼玉県農業大学校の短期課程に入学し野菜栽培の基礎を学びました。その後、川島町のトマト農園で実習を重ね、2022年に川島町で就農し、同年6月に認定新規就農者の認定を受け、12月からトマトを栽培しています。また、今後の生産管理にはGAPが必要だと感じ、2024年4月にS-GAPを取得しました。

栽培面積は9アールで、トマト（レッドオーレ、トマトベリー、ミニトマト、大玉トマト）を農業ハウスで栽培しています。

農地は、埼玉県農地中間管理機構を通じて親類の農地を借り、ハウスは国や県の事業を活用して建てました。農作業は基本的に妻と2人でしていますが、収穫が大変な時期は義母やパート

（2名～3名）に手伝ってもらいます。販売先はJA埼玉さいたま中央の直売所や（株）マルエツ、（株）カスミなどに出荷しています。また、トマトジュースを委託製造して、同販売先に出荷しています。さらに、自社ホームページで直売も始めました。栽培は、従来の経験に基づく生産体制の脱却を図り、省力化と高品質化を両立させるため、隔離栽培技術の「ココバック栽培システム」(*)を導入してトマト栽培に取り組んでいます。また、ハウス内の環境制御のため、農業関連情報サービスを活用し、温度調整、換気窓の開閉、給水等を行っています。今後は、更なる最先端の技術を活用し、AIによる画像解析や土壌評価などのデータを収集し、さまざまな指標を利用して生産性の向上と高品質化に挑戦したいと考えています。最後に、農業は重労働とのイメージがありますが、最先端技術を活用すれば、労働力の軽減と生産性向上は可能ではないかと思っています。試行錯誤は続きますが、おいしいトマトを消費者に提供出来るよう頑張りたいと語ってくれました。

※ヤシガラを使った隔離栽培システムで、土壌病害の発生を防ぎ、土壌へ害虫が入って場合でもすぐに交換ができ、被害の拡大を防ぐことができる栽培システム



大谷正成さん夫妻



トマトの生育確認中

彩の国 農業人

～地域とのつながりを大切にし、
地元農業を守って行きたい～

さかた さとし
坂田 哲さん

美里町において、キャベツやブロッコリー等の生産に取り組む新規就農者の美里坂田農園代表である坂田哲さんを紹介します。

坂田さんは美里町に住む祖父母が養蚕業をやっていたこともあり、農業が身近にある環境で育ちました。近隣では、農業者の高齢化に伴い遊休農地が増えており、誰かがやらなくてはならないと子どもの頃から農業に強い関心を持っていました。大学卒業後、一般企業に就職しましたが、農業への思いが捨てきれず、また、地元に貢献したいとの思いから、町内で就農することを決意したとのことです。

就農するのであれば、しっかりと農業の基礎を学ぶ必要があると考え、平成26年から2年半、前橋市の農業法人に就職し施設野菜を学び、平成29年から2年半は露地野菜を学ぶため、深谷市の農業法人に就職し、栽培技術の指導を受けました。その後、令和元年11月に美里町で就農しました。

農地は、美里町役場や父の知人の農家に相談し、遊休化している農地をスムーズに借りることができました。また、就農当初は35aの農地を借りて始めたのですが、露地野菜の生産を行っていることが近隣農家に伝わり、農地を借りてほしいとの要望が多かったことから、現在の規模（8ha）まで拡大しました。

農業用機械は、国や県の事業を活用し、トラクター、管理機、フレールモア及び野菜植栽機を導入しました。栽培作物は、育苗ハウス2棟と露地でキャベツ、ブロッコリー、かぼちゃ、オクラ、とうもろこしなどを栽培しています。農作業は基本的には1人で行いますが、収穫が大変な時期は家族（両親）に手伝ってもらっています。

生産した品目の多くはJA埼玉ひびきのに出荷していますが、オクラは深谷中央市場などに出荷しています。

農協の取引先からは、JGAPの取得を要望されており、現在、農協の生産部会の仲間と共にGAPの取得について検討しています。

経営規模の拡大については農作業を1人で行っているもので、これ以上の拡大は考えていないとのことですが、農業経営が安定したら、米を導入して、焼きおにぎりの販売やカット野菜の出荷などにも挑戦したいとのことです。

農業は地域の人の協力がないと出来ないことから、地域とのつながりを大事にして、農協の生産部会の仲間や美里町の若手農業者と共に地域の農業を守って行きたいと語ってくれました。



坂田 哲さん



ブロッコリー畑

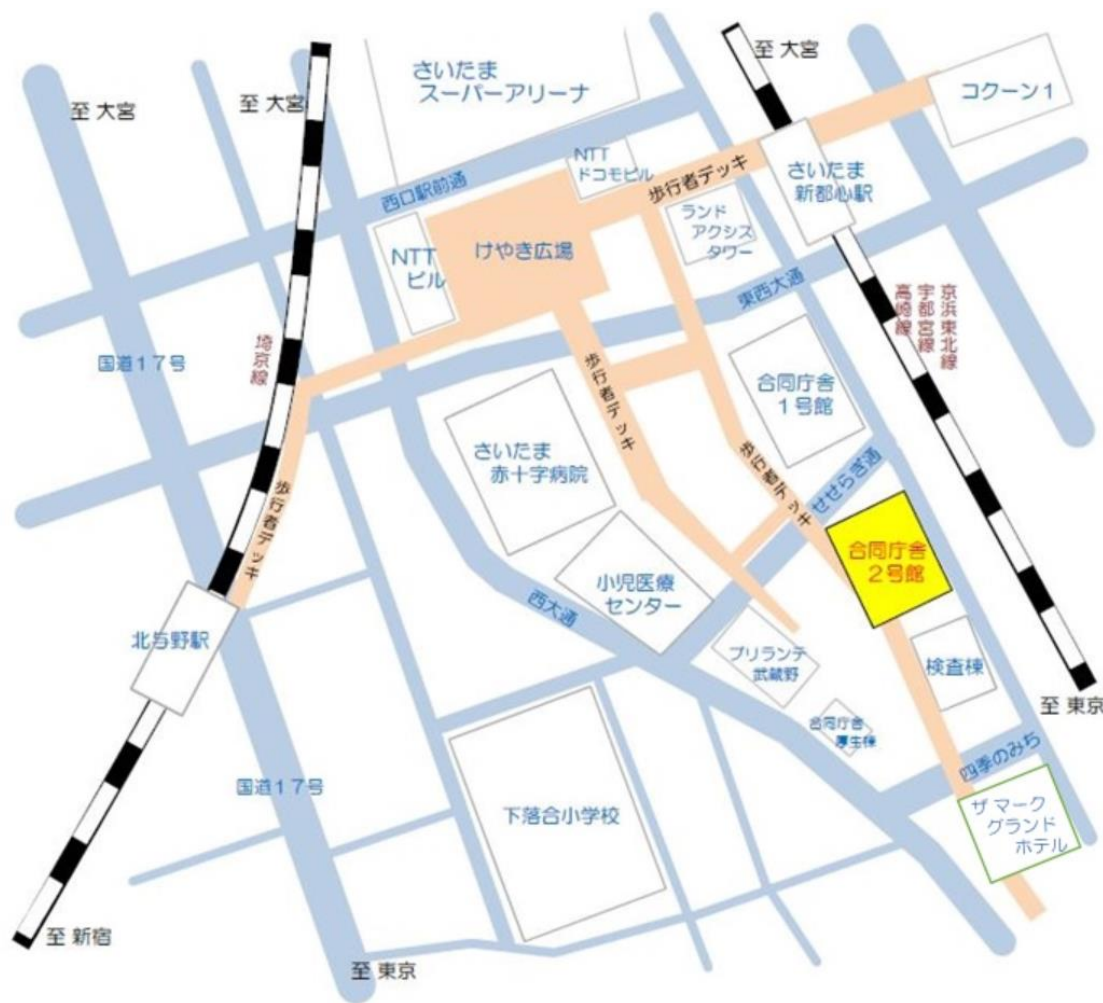
編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-5835
<関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
TEL 048-740-5835
<関東農政局HP> <http://www.maff.go.jp/kanto/>

埼玉県拠点地方参事官室のご案内



関東農政局 埼玉県拠点

さいたま市中央区新都心 2-1
さいたま新都心合同庁舎 2号館13階

TEL: 048-740-5835